

日本藻類学会第15回大会ワークショップ（海藻採集会）参加記

琉球大学での日本藻類学会第15回大会終了後の3月29、30日に、第6回ワークショップが開かれた。琉球大学から車で2時間半ほどの、本部町瀬底島にある琉球大学熱帯海洋科学センターが会場となった。足を運ぶ機会の少ない沖縄ということもあって、学会同様参加希望者が多数であったが、先着27名に講師の吉田忠生氏（北大・理）、田中次郎氏（国立科学博物館）、香村真徳氏（琉大・熱帯）を加えた総勢30名での採集会となった。なかでもデンマークからは Moestrup, Øjvind 氏 (Copenhagen Univ.), 韓国からは Lee, In Kyu 氏, Boo, Sung-Min 氏, Shin, Woong-Gee 氏 (Chungnam National Univ.) が参加されたことで、国際的なワークショップとなった。

一日目は、海洋記念公園を見学後、その北側にある備瀬海岸で採集が行われた。あいにく天気は曇りで波が高く、リーフ外は危険なため採集はリーフ内で行われた。参加者の半数は各自用意したウェットスーツを着用してシュノーケリングで採集を行った。手軽に珊瑚が見えるところはほとんどないということであったが、沖縄の海は期待以上に美しく、ポツリポツリと色鮮やかな枝状の珊瑚と熱帯魚は、参加者を満足させるのに十分であった。筆者にとっては、見なれた北海道の海と海藻相がまるで異なるため、初めてみる種がほ

とんどで、すべてが目新しかった。その中でも特に多くの参加者の目を引いた *Prochloron* はたいへん印象深く、また意外に身近な生物であると感じた。2時間ほど採集し昼食をとった後、センターに戻って採集物の種分け、同定などの作業を行った。瀬底島海藻リストが香村先生より配布され、改めて北海道と比べ生育している海藻の種類の違いと、褐藻の種の少なさを再認識した。夕食後、有志による懇親会がセンターの食堂で行われた。

夜には、雨が降り始め、そのため二日目のセンター前での採集は希望者だけで行うことになったが、ほとんど全員で行われた。波が高く、波打ち際の採集が主であったが、雨のなか熱心に採集が続けられた。午後になっても雨がやまなかったが、数人の希望者が瀬底島北側のクソリ浜での採集に出かけた。浅瀬の巨大なナマコとウニの群れに歓迎され、途中激しい雨にまみわれながらの採集であった。センターに戻り、実験室では相変わらず熱心な観察が行われた。

夕食はワークショップ最後の夜ということで、センターの方々の心尽くしでバーベキューパーティが催された。香村先生に感謝の気持ちを込めて心ばかりの品が贈られたあと、宴会が始まり、有意義だったワークショップはしめくくられた。



備瀬海岸での昼食後の風景

最後に、いろいろお世話になった香村先生、センターの職員、学生の方々にお礼申し上げます。

採集された海藻；

緑藻：ヒトエグサ、アナアオサ、ヒラアオノリ、ウキオリソウ、ミドリゲ、キツネノオ、アオモグサ、キッコウグサ、ムクキッコウグサ、マガタマモ、ミズタマ、フデノホ、ビャクシンヅタ、センナリヅタ、ヨレヅタ、コケイワヅタ、マユハキモ、ウチワサボテング
褐藻：グンセンクロガシラ、イトアミジ、アミジグ

サ、シワヤハズ、ハイオオギ、ウスバベニウチワ、オキナワモズク、ムラチドリ、カゴメノリ、フクロノリ、ラッパモク、ウミトラノオ、アツバモク

紅藻：ハイコナハダ、ピロウドガラガラ、ガラガラ、シマベニモヅク、カギケノリ、ホソバナミノハナ、ガラガラモドキ、キリンサイ、ベニゴウシ、ウブゲグサ、マクリ、トゲノリ、コケモドキ、パピラソゾ、カタソゾ、ナンカイソゾ

(小亀安代：北大・理・植物)

ニ ュ ー ス

第15回国際植物科学会議（東京）—XV International Botanical Congress, Tokyo—

における藻類関係シンポジウムのお知らせ

上記国際会議のあらましは first circular その他でご存知と思います。ここでは会議で取り上げられる藻類関係のシンポジウムについて、これまでの経緯と進行状況をお知らせします。

同会議の組織委員会・プログラム委員（河野昭一、京大・理・植）より藻類関係のシンポジウムの立案・企画・実施の世話人として市村輝宜（東大・応微研）と原慶明（筑波大・生物科学系）が指名され、連絡調整の任務を行なってきました。日本藻類学会会長と連絡をとり、シンポジウムの立案・企画を担当する実務委員を選出し、その方々にシンポジウムの立案企画にお骨折りいただき、以下のような具体案が出来上りました。現在、実務担当者がコンビーナーと相談しながら、講演者の依頼と演題の検討を進めています。

藻類学ないしは藻類として正式に取り上げられたシンポジウム（講演時間は1シンポジウム当り2時間30分で、講演者の人数には制限はありません）は現在4件です。会議全体は8つの柱（1st circular 参照）で構成され、その1つ、Systematics and Evolution of Algae and Prokaryotes のセッション（全部で13セッション）が設けられ、そこに取り上げられています。なお他のセッションで藻類関係のシンポジウムが採択されているかどうかは不明です。各シンポジウムの題目とコンビーナー及び実務担当者（ローカル・コンビーナーを

兼ねる）を紹介します。

① Ultrastructure, Molecular Biology and Systematic Relationships of the Green Algae.

Convener: G. L. Floyd (Dept. of Biology, Ohio St. Univ., USA)

実務担当：渡辺 信（富山大・教育・生）

② Taxonomy and Evolutionary Biology of Prokaryotic Algae.

Convener: J. Komarek (Dept. of Hydrobiol., Inst. of Bot., CSAU, Czechoslovakia)

実務担当：渡辺真之（国立科学博・植物）、渡辺信（国立環境研・地球環境）

③ Biology and Systematics of the Chromophyte Algae.

Convener: D. G. Muller (Fach. Biol., Univ. Konstanz, Germany)

実務担当：川井浩史（北大・理・植）

④ Population Differentiation, Species Relationships and Phylogeny of Rhodophyta.

Convener: D. Guiry (Dept. of Botany, Univ. College, Galway, Ireland)

実務担当：増田道夫（北大・理・植）

各シンポジウムにおける講演者と演題は正式決定後、お知らせ致します。

文責：原慶明（筑波大・生物科学系）